

創立60周年を迎えて

徳島大学長
青野 敏博 あおのとしひろ



1. 徳島大学の歴史

昭和24年に徳島大学が新制の国立大学として創立されて以来、今年で60周年を迎えました。創立当初は学芸学部、医学部、工学部の3学部で発足しましたが、昭和26年に薬学部が工学部より独立し、昭和51年には歯学部が新設されました。学芸学部は教育学部を経て昭和61年に総合科学部に改組され、現在の総合科学部、医学部、歯学部、薬学部および工学部の5学部体制になりました。この間に5万7千人以上の卒業生を社会に送り出し、徳島県下のみならず全国的に活躍されていることは嬉しく思います。

2. 法人化後の大学改革

平成16年度から国立大学が法人化され、自主的な大学運営を行うことになり、多くの面で改革改善を押し進める必要が増してきました。まず、第1に徳島大学における研究、教育を推進するために大学

院の重点化を図りました。平成16年度には大学院医学、歯学、薬学、栄養学研究科を統合してヘルスバ

イオサイエンス研究部に、平成18年度には大学院工学研究科をソシオテクノサイエンス研究部に、平成21年度には大学院人間・自然環境研究科をソシアーツアンドサイエンス研究部に改組しました。同時に全学部に博士または博士後期課程を設置しました。

第2に研究面では平成15年度に21世紀COEプログラムが2拠点採択され、知的クラスター創生事業などが採択されました。平成21年3月に発表された法人化後第1期の暫定評価により徳島大学は研究内容が「良好である」との評価を得ましたが、中国・四国地区の10大学中「良好である」は当大学の1校のみでした。

第3に教育に関しては、文部科学省が平成15年度から大学教育改革支援事業を公募していますが、当大学は初年度から毎年度採択され、平成20年度までの合計で17件を数えています。特に平成18年度には6件採択され、国立大学87

校中第2位の成績でした。

第4に施設の面では、学内の諸施設が大幅に改修、新設されました。常三島地区では共通教育4号館（平成19年度）、同5号館と図書館（平成20年度）、総合科学部1号館（平成21年度）が改修され、教育環境が著しく改善されました。

一方、蔵本地区では医学部実験研究棟A館（平成17・18年度）、同B館（平成19年度）、臨床研究棟A棟西半分と保健学科C棟（平成20年度）、保健学科B棟と旧第3病棟の臨床研究棟化（平成21年度）がそれぞれ改修を行い、研究環境の改善を図ることができました。なお、病院の中央診療棟（平成15年度完成）および西病棟（平成21年度完成）を新設し、患者さんが快適な環境で療養できるようにしました。

次年度から国立大学法人の第2期に入りますが、徳島大学は今後も教育、研究基盤を強化して国際的に評価の高い大学を目指して努力いたしますので、皆様の温かいご協力をお願い申し上げます。



創立60周年特集

沿革

徳島大学は今年、国立大学としての発足から60周年を迎えますが、その前史から数えると135年の歴史があります。近年の施設整備により建物は新しくなり、外観からは昔の面影が薄れてきたかもしれませんが、その伝統は脈々と受け継がれています。沿革のコーナーでは徳島大学のこれまでの歩みとともに、歴史を今に伝えるべく新蔵・常三島・蔵本の各キャンパス内に設置されている記念碑などを紹介します。

写真にみる徳島大学今昔

広報誌表紙の変遷



学生の授業・実験の様子



各キャンパスの様子



現在の常三島

昭和30年代の常三島

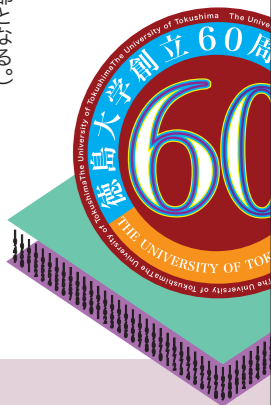
現在の蔵本

昭和30年代の蔵本

現在の新蔵

昭和40年代の新蔵

年表と歴史的遺産の紹介



前史

1874年*明治7年* 徳島師範成学校の創設(1949年5月徳島大学芸学部となる。)

1922年*大正11年* 徳島県立実業補習学校教員養成所の設置(1949年5月徳島大学芸学部となる。)

10月 官立徳島高等工業学校を常三島町に設置(土木・機械・応用化学の3学科、応用化学科に薬学部の母体となる製薬化学部を設置、1949年5月徳島大学工学部となる。)

4月 徳島高等工業学校に製薬化学部を増設

4月 徳島県立医学専門学校の設置(1949年5月徳島大学医学部となる。)

2月 新蔵町の徳島市民病院を移管し、徳島県立徳島医学専門学校附属病院と改称

1948年*昭和23年* 徳島医科大学の設置(蔵本町1949年5月 徳島大学医学部となる。)

創設期

1949年*昭和24年* 5月 国立大学徳島大学の設置(芸芸学部・医学部・工学部の3学部)

7月 徳島医科大学附属病院を徳島大学医学部附属病院と改称

7月 第1回徳島大学入学式を挙げる

11月 徳島大学開学祝賀会を工学部講堂で挙げる(以後、開学記念日となる)

4月 薬学部を設置(同年3月工学部薬学科を廃止)

5月 附属図書館を常三島地区に設置、医学部図書分館を蔵本分館と改称

3月 第1回徳島大学卒業式を挙げる

4月 徳島大学工業短期大学部を併設(1996年3月廃止)

1月 徳島大学の大学歌とバッジを選定

4月 大学院医学研究科を設置

4月 第三島地区に学生会館を開館

4月 医学部附属酵素研究施設

1964年*昭和39年* 4月 大学院工学研究科を設置

4月 医学部に栄養学科を設置

10月 **東京オリンピックの開催**

発展・充実期

1965年*昭和40年* 4月 教養部を設置(1993年3月廃止)

4月 大学院薬学研究科を設置

9月 大塚講堂の落成式を挙げる

4月 学芸学部を教育学部と改称(1990年3月廃止)

5月 電子計算機センター(現在の高情報化基盤センター)を開設

6月 養護教諭養成所を附置(1979年3月廃止)

4月 大学院栄養学研究科を設置

4月 「徳大広報」を創刊

4月 保健管理センターを設置

4月 薬学部附属薬用植物園

10月 (現在の薬学部附属医薬資源教育研究センター)を設置

10月 歯学部を設置

1976年*昭和51年* 10月 **共通一次試験を実施**

4月 歯学部附属病院を設置

1979年*昭和54年* 4月 歯学部附属病院を設置

1982年*昭和57年* 12月 医学部に全国初の倫理委員会を設置

1983年*昭和58年* 4月 大学院歯学研究科を設置

1985年*昭和60年* 6月 **大鳴門橋が開通**

4月 総合科学部(総合科学科)を設置、教育学部附属の小学校・中学校・幼稚園・養護学校を鳴門教育大学に移管

1987年*昭和62年* 10月 大学開放実践センターを設置

1990年*平成2年* 4月 医学部附属看護学校・診療放射線技師学校・臨床検査技師学校を改組し、徳島大学医療技術短期大学部を併設(2005年3月廃止)

1991年*平成3年* 4月 医学部栄養学科で寄付により臨床栄養学(大塚)講座を設置

4月 長井記念ホール(現産学官連携プラザ)を設置

1991年*平成3年* 4月 地域共同研究センター(現在の産学官連携プラザ)を設置

整備・拡充期

1993年*平成5年* 10月 併設工業短期大学部を廃止転換し、工学部に夜間主コースを設置

1994年*平成6年* 4月 大学院人間・自然環境研究科を設置

1995年*平成7年* 4月 北島町に国際交流会館を開館

1996年*平成8年* 7月 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを設置

1998年*平成10年* 4月 ゲノム機能研究センターを設置

1999年*平成11年* 4月 全学共通教育センターを設置

2000年*平成12年* 11月 徳島大学創立50周年記念式典を挙げる

2001年*平成13年* 4月 副学長制の導入、徳島大学運営会議の設置

2002年*平成14年* 10月 徳島大学医療技術短期大学部を改組し、医学部保健学科を設置

4月 徳島大学学章を制定

10月 留学生センターを設置

10月 教育実践推進機構、研究連携推進機構を設置

2003年*平成15年* 2月 徳島県・徳島県教委・市長会・町村会との間で徳島地域連携協議会を設置

10月 医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、医学部・歯学部附属病院とする

11月 社会連携推進機構を設置

国立大学法人化

2004年*平成16年* 4月 国立大学法人法制定により国立大学法人徳島大学を設立

国立大学法人徳島大学役員ならびに同経営協議会・同教育研究評議会を設置

徳島大学基本構想・第一期基本計画を発表

4月 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部、および

4月 医学部・口腔科学・生命栄養科学・薬科学の4教育部を設置

3月 徳島大学地域・国際交流プラザ(日亜会館)の竣工記念式典を挙げる、

「ガレリア新蔵」の開設

4月 大学院ソシオテクノサイエンス研究部および先端技術科学教育部を設置

4月 大学院保健科学教育部を設置

4月 工学部で寄付によりナノマテリアルテクノロジー(日亜)講座を設置

4月 歯学部口腔保健学科の設置

4月 疾患酵素学研究センターの設置(分子酵素学研究センターの転換)

2008年*平成20年* 4月 大学院保健科学教育部博士後期課程を設置

4月 疾患ゲノム研究センターを設置(ゲノム機能研究センターの転換)

2009年*平成21年* 4月 総合科学部を人間文化、社会創生、総合理数の3学科に改組

4月 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部及び総合科学教育部を設置



ガレリア新蔵

創立50周年記念式典



長井長義博士の胸像

喘息の特効薬エフエドリンの発見で知られる、徳島が生んだ日本の薬学の始祖長井長義博士の胸像です。

長井博士は、大正11年の徳島高等工業学校創設に際し、現在の薬学部の源流となる応用化学科製薬化学部の設置に多大な貢献をされました。

胸像は、徳島化学会の発起により長井先生顕彰会(会長・児玉第2代学長)が設立され、昭和29年11月徳島公園に建設されました。その後、昭和48年11月の薬学部創立50周年記念事業として薬学部の庭園に迎えました。



工学部の門柱

大正11年の徳島高等工業学校創設時に設置された門柱です。

現在2基のみが残っており、昭和48年5月の工学部創立50周年時の記念プレートが取り付けられています。

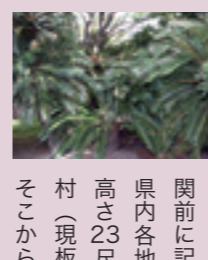


小溝茂橋初代徳島高等工業学校校長の胸像

大正11年12月から昭和7年3月までの約10年間、現在の工学部の前身である徳島高等工業学校の初代校長を務められた小溝茂橋先生の胸像です。

小溝先生は、「学生を遇するに青年紳士を以てする」との方針で、学校の教育の方向を定められ、本学の伝統の礎石を築かれました。

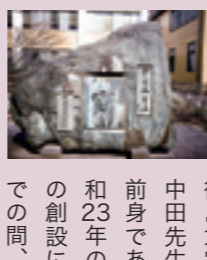
胸像の原型は、戦時中の金属回収運動のため昭和19年秋に供出されましたが、昭和33年11月9日、徳島大学工業会からの依頼で教育学部(現総合科学部)の坂東文夫教授により、現在の胸像が製作されました。



蘇鉄

大正13年1月26日、皇太子(昭和天皇)のご成婚を祝する式典が挙行政され、徳島高等工業学校の教職員一同が拠金して、当時の校舎の玄関前に記念植樹を行いました。

県内各地を探した結果、板野郡御所村(現阿波市土成町)に高さ23尺(約7メートル)もの樹があることがわかり、大山村(現板野郡上板町)を経て、吉野川まで牛馬を使って運び、そこから船で学校まで運搬しました。



中田篤郎初代学長の記念碑

徳島大学初代学長の中田篤郎先生の記念碑です。

中田先生は徳島大学創設前の昭和18年4月、現在の医学部の前身である徳島医学専門学校の初代校長に就任された後、昭和23年の徳島医科大学の設置、昭和24年の国立大学徳島大学の創設にご尽力され、初代学長を務められた昭和27年10月までの間、徳島大学の礎を築かれました。

記念碑は、医学部関係者、卒業生各位の絶大なご協力を得、昭和40年5月10日に設置されました。重さ7トン、高さ2メートルの青泥片岩には、中田先生の書「学者如登山」及び児玉第2代学長の書「中田篤郎博士像」が刻まれ、中央には東京オリンピックの優勝メダルの作者である大阪造幣局指導官小柴利孝氏による胸像浮彫銅板がはめ込まれています。



児玉桂三第2代学長のレリーフ

徳島大学の創設期ともいえる昭和28年4月から昭和40年3月までの間、第2代学長を務められた児玉圭三先生のレリーフです。

徳島大学は、児玉先生在任中の12年間でめざましい発展を遂げました。学部・学科、大学院や研究施設等の新設、建物の新・改築と設備の充実を併せて、現在の徳島大学の基礎レリーフは、昭和40年に新蔵地区の前庭に設置され、昭和53年の事務局新庁舎建設の際に壁面へ移されました。



記念事業案内

徳島大学は、本年で創立60周年を迎えました。これを記念し、本年度は、「輝く未来をつくるー徳島大学60ー」をキャッチフレーズに様々な記念事業を計画しています。7月以降に開催される多彩な記念事業をご紹介します。皆様には、是非ご参加・ご観覧くださいますよう、お願い申し上げます。

美術展・作品展

60周年記念美術展シリーズ

場所…

ガレリア新蔵「徳島大学日亜会館内」
徳島市新蔵町2丁目「徳島大学本部棟裏」

日程…

- 7月 河崎良行彫刻展
- 8月 上月佳代彫刻展
- 8月 東南光書道展
- 黒田倫代作品展
- 徳島大学開放実践センター 書道受講生展
- 9月 書道8人展
- 総合科学部 絵画表現研究室学生作品展
- 10月 同研究室 卒業生作品展
- 平木美鶴
- 11月 「総合科学部教授」作品展
- 徳島大学職員文化祭
- 秋麗書作展
- 徳島大学美術展



書道展「新居藍州・春藤大歌書作展」(21年5月)



作品展現代アート「room」(21年6月)

60周年記念講演会・記念フォーラム

- 市民フォーラム
『徳島から開くLED未来社会』
平成21年10月10日(土)13時～
徳島大学工学部創成学習スタジオ
- 市民フォーラム
『脱メタボと糖尿病を考える』
平成21年10月10日(土)14時～
徳島大学大塚講堂
(蔵本キャンパス内)
- 記念講演会
林啓介氏『賀川豊彦について』
平成21年11月25日(水)16時30分～
徳島大学全学共通教育棟
(常三島キャンパス内)

特別記念講演

城戸久枝氏(作家)
平成21年12月5日(土)14時～
郷土文化会館
・プロフィール
愛媛県生まれ
徳島大学総合科学部卒
『あの戦争から遠く離れて 私につながる歴史をたどる旅』を執筆
第39回大宅壮一ノンフィクション賞
第30回講談社ノンフィクション賞などを受賞
本年4月 NHKドラマ「遙かなる絆」として放映。

記念式典・祝賀会

平成21年11月2日(月)
ホテルクレメント徳島

『ホームカミングデー』

■学部主催記念事業
本学の同窓会員に母校(徳島大学)へ集っていただき、旧交を温めるとともに、大学の現状を紹介します。

医学科ホームカミングデー

平成21年7月20日(月)

学部主催記念事業

- 第13回科学体験フェスティバル
平成21年8月8日(土)・9日(日)
徳島大学工学部
- エンジニアリングフェスティバル2009
平成21年9月18日(金)
徳島大学工学部
- 徳島大学病院フォーラム2009秋
『健やかな未来のために 高血圧を知る』
平成21年10月17日(土)
ホテルクレメント徳島
- 徳島大学病院フォーラム2010春
平成22年2月13日(土)
郷土文化会館

記念音楽会

■クラリネット奏者
石川幸司氏らによる木管五重奏
平成21年11月29日(日)14時～
徳島大学長井記念ホール
(蔵本キャンパス内)



徳島大学創立60周年記念事業事務局
事業関係(問合せ先)
電話:088-656-7006
メール:
hisyohosa@jim.tokushima-u.ac.jp

創立60周年特集 寄附者芳名録

徳島大学創立六十周年記念事業への協力、心よりお礼申し上げます

卒業生をはじめ、多くの皆様からご厚情をいただき、平成20年11月末現在で約3千人の方からご寄附をいただいております。ご寄附をいただきました皆様のご協力に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込め、ここに「芳名」を掲載させていただきます。

今号では、5月末までにご入金を確認させていただいた方で、公開を了承いただきました方を五十音順に掲載しております。なお、5月末現在で本学役職員である者につきましては、割愛させていただきます。また、6月以降にご入金を確認できた方につきましては、平成22年1月号に掲載いたします。引き続き本学をご支援賜りますようお願い申し上げます。

青木一男	木内陽介	多田浩	医療法人 川内内科
小豆澤瑞夫	日下部龍介	藤井國夫	株式会社 きんでん
安藤詔生	日下部龍太	藤崎臣弘	医療法人 恵愛会
家崎勝生	国見源一	藤田定吉	近藤化学工業株式会社
井形勉	桑折龍二	古市和行	医療法人 高野会 高知高須病院
伊澤利郎	小阪昌明	堀江秀茂	四国電力株式会社
伊澤方子	児島一夫	本多孝司	株式会社 四電工
石戸谷淳一	小西正暉	松本浩章	四国八洲薬品株式会社
伊東良樹	小松敏行	松崎大次郎	株式会社 徳島総合研究所
井上利之	小森慎二	南本茂樹	徳島大学工業会 大阪支部 化学系部会 工化会
今井克己	小山博義	三村康男	徳島大学生活協同組合
今井美鈴	根東和義	宮村昭夫	日本電工株式会社 徳島工場
宇都山登	佐藤浩介	宮本精子	株式会社 フジタ建設 コンサルタント
浦辺憲男	佐藤浩生	三好保	プリストル・マイヤーズ株式会社
江頭泰生	佐野博	武藤亮治	医療法人 芳越会 ホウエイ病院
大患俊一郎	佐山孝	村上敏裕	医療法人 大和 大和外科医院
大岡裕子	篠原能材	村田豊	
大倉良昭	志摩利忠	安田勝裕	
大澤弘和	島村隆之	吉岡八重子	
大西敏男	杉山泰雄	吉見哲朗	
岡部邦芳	鈴木拓也	米田弘子	
小幡恒彦	瀬口美枝子	渡辺逸郎	
加藤俊彦	瀬藤芳房		
加藤逸夫	高橋直子		
門野喜一	滝川清一		
金子秀世	竹内佐代子		
金子秀光	日浅光春		
河崎良行	竹内紀文		
川邊敏弘	武重正三		
河野彰夫	武田克之		

*徳島大学の『創立60周年記念事業』にご賛同いただき、ご寄付をいただける方がおられましたら、下記までお問い合わせくださるよう何卒よろしくお願いいたします。

徳島大学創立60周年記念事業事務局
募金関係(問合せ先)
電話:088-656-7006
メール:
60anniv@jim.tokushima-u.ac.jp

60周年記念事業

新学部長に聞く

徳島大学総合科学、医学、歯学、薬学、工学の5学部では、前任の学部長が平成21年3月31日をもって任期満了及び定年退職したことに伴い、4月1日付けで5名が新学部長に就任しました。今回は特集記事を2本立てにし、それぞれの新学部長に各学部のさらなる飛躍に向けての抱負をご紹介します。

「総合科学」の新たな旅立ち



総合科学部長
石川 榮作 いしかわ えいさく

本年4月、総合科学部は従前の2学科を人間文化学科と総合数理学科に改組するとともに、新たに社会創生学科を設けて、3学科体制で再スタートしました。これに併せて大学院も、これまでの人間・自然環境研究所

総

を発展的に解消して、総合科学教育部として新たな道を歩み始めました。博士前期課程には地域科学専攻（地域創生・環境共生・基礎科学の3分野）と臨床心理学専攻を置き、博士後期課程には地域科学専攻を設けています。

今回のこの大学院および学部の改組によって「総合科学」をさらに一層推進していく教育研究体制は整備されたことになりました。今後はその「総合科学」の教育理念を実現していくのみです。21世紀に求められている持続可能な共生社会を構築するためには、諸科学を融合した「総合科学」が是非とも必要です。

今こそ従来の殻を打ち破って、真の意味での「総合科学」の新しい道を切り開いて行くべきときです。教育はすでに「ある」ものではなく、常に新しく「創り出していく」ものです。教職員と学生が常にコミュニケーションを図りながら、「総合科学」の教育理念を実現していきたいと考えています。

医学部が目指す人材育成



医学部長
玉置 俊晃 たまき としあき

徳島大学医学部は、四国唯一の徳島県立医学専門学校として昭和18年に設立され、昭和24年に官立の徳島医科大学に改組された後、昭和30年には大学院医学研究科が設立されました。昭和39年には本邦唯一の栄養学科が設立され、昭

和43年に大学院栄養学研究科の創設となりました。更に平成14年に保健学科が設立され、平成18年には新たに大学院保健科学教育部も創設され、全国でも極めてユニークな医学、栄養学、看護・保健医療学という全人的医療の推進に必要な全ての領域を備えた総合医学研究とチーム医療を担う人材の育成機関としての体制が確立しまし

た。徳島大学医学部は、医学・医療を実践する医療人としての使命感を培い、地域医療への貢献を果たすと共に、生命の調節機序と病める人達の病態を解明し新しい予防法・治療法の開発に貢献することなどを通

じ、自己開発と自己評価ができる人材の育成を目標としています。また人類の最新情報を共有することができ、自ら世界に情報を発信できる国際性豊かな人材の育成をめざしています。そして、共に探求し飛躍と発展を遂げるべくチャレンジする方々と一緒に、新たな医学教育・研究環境の創成をはかりたいと考えています。

徳島大学歯学部 理念と目標



歯学部
林 良夫 はやし よしお

徳島大学歯学部は、昭和51年に全国で8番目の国立大学歯学部として設置され、今年で33年目を迎えます。現在まで、四国で唯一の歯学部として歯科医学の教育・研究拠点として地域医療に貢献する人材育成のため、歯科医療技術に立脚した歯学教育に加え、隣接医

歯

学教育にも力点を置いた教育研究活動が行われてきました。昭和58年に設置された大学院歯学研究科は、平成16年のヘルスパイオサイエンス（HBS）研究部設置に伴い、大学院口腔科学教育部として改組され現在に至っています。平成19年には、高齢社会

における健康長寿の推進に貢献すべく、歯学部口腔保健学科が設置され、社会のニーズに対応した医療人の育成が行われています。また平成20年には文部科学省・教育GP「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」の採択を受けて活動を開始しています。

学部教育および大学院教育を通じて、医療人としての自覚に基づき国民の健康長寿、地域医療に寄与することのできる口腔健康科学を確立するとともに、「全身の健康を担うオーラルサイエンス」というテーマの下で先進的な学部教育・大学院教育が展開され、世界で活躍する国際的研究者や高度な専門性を備えた医療人の育成をめざしています。

薬で社会に 貢献する学部



薬学部
高石 喜久 たかい よしひさ

薬学部は大正11年徳島高等工業学校（現在の工学部）応用化学科製薬化学部として誕生し、その後、学部独立、蔵本への移転、学科増設、大学院設置などを経て、これまでに約5000人の卒業生を社会に輩出しています。当学部は薬

薬

学部としては珍しく唯一工学部から発祥しており、伝統的に製薬・創薬の気風が今日も脈々と続いております。平成18年度の薬剤師教育6年制施行に伴い、「生命科学を基盤とする薬学を研究・教授することを通して、薬の専門家としての、知的・技術的基盤形成に必要な教育と深く医療に関わる使命感と倫理

観を持たせる教育を行い、以って、人類の福祉と健康に貢献する人材を育てることを学部理念として、医薬品をとおし国民の健康を守り、健康を確保する人材を養成する「創製薬科学科」（4年制、創薬・製薬科学の研究者養成）と、医療人として国民の命を守り、健康を確保する人材を養成する、「薬学科」（6年制、薬剤師養成）を設

置しました。私は、この両学科は車の両輪で、いずれも薬学教育には必要不可欠であると認識し、学部の理念、社会からの問いかけを肝に銘じ、本学医療人養成機関と相互協力の下、社会に見える薬学を指し、教職員と共に優れた人材の育成を通じ社会に貢献していきたいと考えています。

「工学部」の 伝統を活かして



工学部長
大西 徳生 おおにし たくお

工

研究機関・教育機関等に送り出し社会に貢献しています。

められています。大学院博士前期課程は、学部卒業生の半数を超える学生が進学し、学部教育からの6年一貫教育と卒業研究に続く研究活動を通じて、社会の要請に応えた即戦力のある中堅技術者となって、社会で活躍しています。博士後期課程では、さらに特化した専門分野の研究

え、国際的に活躍できる自律した技術者・研究者の育成にも力を注いでいます。

徳島大学工学部・大学院は、大正11年に設置された徳島高等工業学校に礎を置く歴史ある学部・大学院で、学生数・教員数ともに中国・四国地域で最大規模です。本学部・大学院は、入学時に対し卒業（修了）時点でのレベルアップが大きく、多くの優秀な技術者・研究者を企業・

工学基礎、専門基礎を身につけて社会の変化に柔軟に対応できる自律的応用力、創造力の育成を目指しています。工学部の教育レベルの質は高く、すでに、7学科中6学科がJABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けて、国際的に通用する教育プログラムであることが認

者となって、大学、高専の教員や企業等で活躍しています。本学部・大学院では、グローバル化時代を迎

用する技術者を育成するとともに、世界的レベルの研究者、国際的に通用する技術者を育成するとともに、産学連携・地域貢献を果たすことを目指したいと思えます。